

第7回ホスピタル・プレイ・スペシャリスト  
国際シンポジウム&ワークショップ 実績報告

日本におけるホスピタル・プレイと専門職の歩み  
現在、そして未来に向かって

1. 全体概要

(1) 開催日時

平成27年1月31日(土) 10時～16時50分

(2) 開催場所

静岡県立大学短期大学部 講堂及び教室

(3) 開催概要

本学におけるHPS養成事業を振り返り、現在の到達点を確認するための場として国際シンポジウム&ワークショップを開催され、北海道から九州・沖縄まで24の都道府県から114名の参加者があった。国際シンポジウムでは、入院した際にHPSに出会った経験をもつ本学の学生が基調講演に始まり、HPSの医療チームにおける貢献について小児科医による講演、英国のHPS職能団体の会長代行から、英国におけるHPSの現在と未来に関する講演を行い、日本におけるホスピタル・プレイについて、振り返るとともに今後の遊び支援のあり方について再考するきっかけとなった。また、HPSによる参加型ワークショップを通して社会全体で子どもの遊ぶ力を引き出すとともに、子どもにとっての遊びの意味や価値について専門的な知識と理解を深めることとなった。

2. 当日プログラムの概要

(1) 10:00～10:05 開会挨拶

木苗直秀(静岡県立大学短期大学部学長)

本学でのHPS養成教育事業の経過および本シンポジウムのプログラムの紹介について話があり、開会挨拶とした。

(2) 10:05～10:15 主催者挨拶

松平千佳(静岡県立大学短期大学部 准教授・HPS養成事業責任者)

本事業に対してご支援とご協力をいただいている各位に対する謝辞があった。またホスピタル・プレイと専門職の歩みについて、本学およびNPO法人ホスピタル・プレイ協会としての活動報告と今後の展望について述べた。

(3) 10:15~10:35 基調講演

小山麻莉 (静岡県立大学短期大学部社会福祉学科 2年)

入院した際に HPS に出会った経験をもつ本学の学生が基調講演を行った。彼女の語りを通して、子どもにとって病気が持つ意味を考えると同時に、HPS のかわりが 10 代の子どもに与える影響について述べた。

(4) 10:35~11:10 講演 1

藤田直也 (聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院 小児科主任医長)

本講演では、HPS4 人とともに働く小児科医がこれまでの治療の在り方、また HPS をチームに入れてからの歩みについて述べた。ホスピタル・プレイのもつ力と HPS の可能性についても言及し、参加者への大きな励みになった。

(5) 11:10-11:50 講演 2

Emma Eardley (National Association of Health Play Staff 会長代行、  
バーミンガムこども病院 上級 HPS)

NAHPS の会長代行という立場で、プレイ・スペシャリストの導入による National Health Service における変化と課題、在宅での HPS 活動と在宅支援ゆえの難しさ、医学の進歩による弊害と HPS の社会的評価をさらに高めるための協働などについて述べた。

(6) 11:50~12:00 ワークショップ案内

(7) 12:00~12:40 昼休み

(8) 12:40~16:30 HPS ワークショップ ホスピタル・プレイの実際 (4 ブース)

本学 HPS 養成講座は、現在まで 10 クールが実施されている。HPS によるホスピタル・プレイ活動を紹介しつつ、ワークショップを通じて、参加者は子どもにやさしい医療を実現するための活動を体験的に学んだ。

● ブース A (会場: 102 講義室) バーミンガムこども病院での実践を学ぶ

Emma Eardley (National Association of Health Play Staff 会長代行、  
バーミンガムこども病院 上級 HPS)

バーミンガムこども病院で小児がん、幹細胞移植、血液腫瘍、リハビリテーション、頭蓋顔面外科手術等、多岐にわたってプレイ・スペシャリストとしての経験をもつ Emma Eardley によるバーミンガムこども病院での実践をワークショップを交えて学んだ。

- ブースB（会場：101 講義室）遊びを通したリラクゼーションとヒーリングの方法を学ぶ（後藤和恵、河本鈴代、杉渕早苗）  
感覚刺激を利用した制作遊びとともに、身近な材料を使ったスヌーズレンを实际体験しながら、スヌーズレンという楽しい遊びと共にヒーリングの効果を体験的に学んだ。
- ブースC（会場：104 講義室）プレイ・プレパレーションの方法を学ぶ  
プレイ・プレパレーション・ブックの製作時に、重要なポイントとアイデアをわかりやすく提供し、子どもがプレイ・プレパレーションを身近に感じられるようなブックの製作を行った。
- ブースD（会場：105 講義室）ディストラクション・セラピーの方法を学ぶ  
子どもの年齢や発達に見合った効果的なディストラクション・ツールを紹介した。実際にディストラクション・ツールを作成し、その後はディストラクション・セラピーも体験した。

(9) 16:30～16:40 休憩・移動

(10) 16:40～16:50 まとめ・閉会挨拶

有泉祐吾（静岡県立大学短期大学部部長）

閉会挨拶に先立ち、主催者より2月1日のHPSスキルアップ講座の講師であるBarbara Mackay氏を紹介した。

その後、有泉短大部部長より本学における今後のHPS養成教育事業について述べられ、閉会の挨拶とした。

### 3. 当日の様子

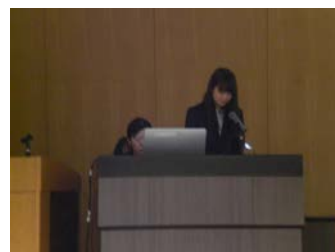
開会挨拶



主催者挨拶



基調講演



## HPS ワークショップ



## HPS 海外研修報告



チェコ EACH 会議での HPS ワークショップ



韓国での HPS ワークショップ

主催：静岡県立大学短期大学部

NPO 法人ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会

後援：静岡市

